

# 農のある暮らし

高知工科大学 工学部 社会システム工学科  
1101005 北川雄也

## 現況

「農」は都市化という時代背景により完全に我々の生活から切り離されてしまった。全国の農村では、過疎化、高齢化、就農者の減少、兼業化等の問題のなかで、年々「農」の存在が薄れてきている。一方、都市部ではストレスの増大により「Uターン」や「スローライフ(自給自足)」さらには「Lohas〜ロハス〜」、「グリーンツーリズム」等の考えが浸透してきている。「農のある暮らし」は生活空間としての役割に加え、自然環境に包まれた最も望ましい生活空間であると認識されつつある。

## 提案

「Uターン」や「スローライフ(自給自足)」を目的に地方で農業を行う事は、都市生活を行ってきた人には難しい。「Uターン・リターン」がいい例である。地方では、地域住民同士のつながりが生きており人間関係が生活に大きく影響する。これは、農業でも共通しており地方には地方の農業ノウハウが存在する。そのため、地元就農者や地域住民とコミュニケーションがとれ、農業ノウハウや地域の風習などを学ぶ事ができ、地方生活や就農への肩ならしとして利用する施設を提案する。

## 計画

「農」を主体とした施設を計画する。  
都市住民：  
「農のある暮らし」ができる長期滞在型の農業学校、宿泊施設付きの農園等を計画。  
地域住民：  
コミュニティーの場になる広場、市民農園、果樹園、直売店、レストラン等の施設を計画。

## コンセプト

この施設は、誰もが自由に入出りができ、散歩がてら立ち寄る事ができる。また、敷地内には果樹園、菜園、田んぼなどの大小様々な農園を点在させる。そのため、敷地全体をあぜ道で区切られたいくつかの畑と見立て「農」に馴染むように配置する。これにより敷地内を自由に行き来できる。建物は、「農」をイメージさせる「ビニールハウス」、「小屋」のカタチを用いる。



## 敷地

高知県安芸郡芸西村

高知市から東へ30km。村の南は土佐湾に面し、北を山地に、東西を台地に囲まれたこの村は、冬でも暖かく、ずらりと並んだビニールハウスが印象的な、県内屈指の園芸農村である。



